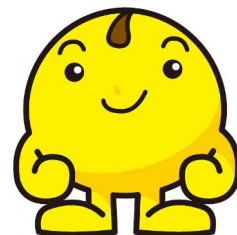


大豆の生産・販売状況について



1. 27年産の生産状況について（全農集計）

（1）全国

☺ 作付面積は115,700haと、前年産に比べて8,800ha増加しました。（前年比108%）

☺ 集荷数量は183,600トンと、前年産に比べて6,300トン増加しました。（前年比104%）

北海道・東北・北陸地区で作柄が良好だった一方、関東・東海・中国四国・九州地区では天候不順等により不作となりました。

（2）本県

☺ 作付面積は4,555haと、ほぼ前年並み（+16ha）となっています。（前年比100%）

☺ 集荷数量は、一部地域で台風の被害を受けたものの、全般的に作柄が良好だったことから、前年産を1,111トン上回る8,747トンとなりました。（前年比115%）

【表1. 平成27年産大豆の作付・生産状況】

区分	平成27年産（A）		平成26年産（B）		対比差（A－B）	
	面積	集荷量	面積	集荷量	面積	集荷量
全 国	115,700ha	183,600t	106,900ha	177,300t	+8,800ha	+6,300t
新潟県	4,555ha	8,747t	4,534ha	7,636t	+16ha	+1,111t

※ 全農集計値

（3）品質概況

☺ 本県の品質について、1・2等比率は19.6%と、前年産（4.4%）を大幅に上回っているものの、依然として全国平均を大幅に下回っており、品質向上が喫緊の課題となっています。

☺ 品質低下の要因は、「しわ粒」の発生が大半となっています。

【表2. 検査結果（等級比率）】

区分	年産	検査数量	普通大豆				特定加工	規格外
			1等	2等	(1・2等計)	3等		
全 国	27年産	218,861t	25.1%	32.7%	(57.8%)	29.4%	12.2%	0.6%
新潟県	27年産	9,503t	5.1%	14.5%	(19.6%)	57.3%	22.7%	0.4%
	26年産実績	8,140t	0.3%	4.1%	(4.4%)	39.4%	55.4%	0.8%

※ 農水省公表値（3月31日現在）より。

※ ラウンドの関係で合計値が合わない場合がある。

2. 27年産の販売状況について

(1) 需給環境

- ☺ 27年度の供給量は23万4千トンと、前年度に比べて1万4千トン増加しています。
年間使用量を農水省の需要調査等にもとづき18万トンと想定した場合、次年度繰越は5万4千トンとなり、需給の逼迫感は一定程度解消される見通しとなっています。

【表3. 需給イメージ（全農推定）】

（単位：千t）

区分／年度（11月～10月）		27	26	25	24	23
1	集荷数量	184	177	151	181	167
2	前年繰越	50	43	62	64	81
3	供給量（1+2）	234	220	213	245	248
4	使用量	180	170	170	183	184
5	次年度繰越（3-4）	54	50	43	62	64
6	年間需要に占める繰越比率	30%	29%	25%	34%	35%

(2) 入札取引（4月末現在）

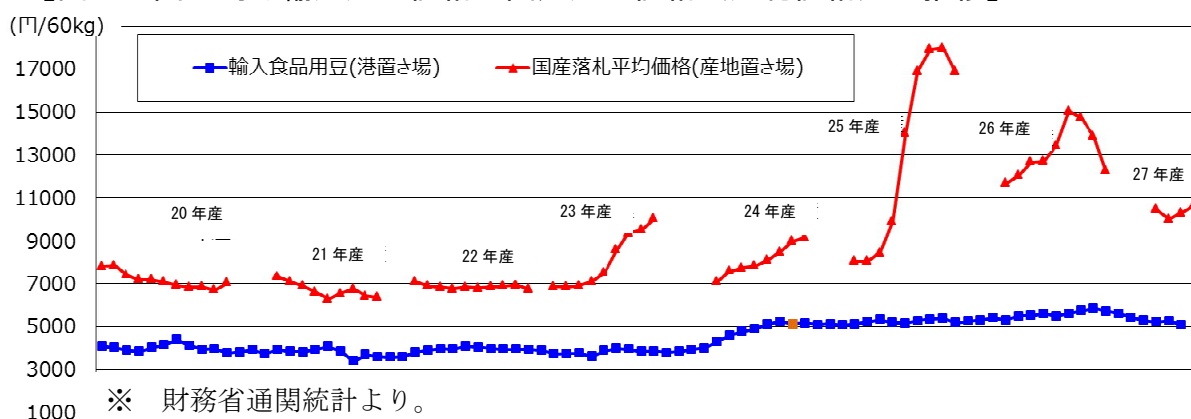
- ☺ 入札取引は11月25日から開始され、これまでに6回実施されています。
☺ 落札価格は、逼迫感が解消されつつあることから、全国、本県とも前年を下回る水準となっており、特に作柄が良かった東日本産の下げ幅が大きくなっています。

【表4：大豆入札取引結果（4月末）】

（単位：60kgあたり税抜価格）

		上場数量	落札数量	落札率	落札平均価格
全国	27年産	39,620 t	31,438 t	79%	10,371 円
	26年産	37,213 t	35,590 t	96%	13,192 円
	前年差	+2,407 t	△4,152 t	△17%	△2,821 円
新潟	27年産	1,802 t	1,703 t	95%	9,260 円
	26年産	1,535 t	1,535 t	100%	13,698 円
	前年差	+267 t	+168 t	△5%	△4,438 円

【図1. 国内向け輸入大豆価格と国産大豆価格（入札価格）の推移】



3. 28年産の生産に向けて

本県産大豆は実需者から一定の評価を受けており、安定供給を強く求められています。

27年産は、作付面積・集荷数量ともに増加し、安定供給を実現することができました。

28年産も引き続き品質および単収の向上に努め、県産需要の維持・拡大をはかりましよう。

4. 「里のほほえみ」について

😊 品質・収量の向上をはかるため、優良品種「里のほほえみ」の導入を、県と連携しながらすすめています。

😊 「里のほほえみ」は、成熟期が「エンレイ」より9日程度遅い晩生品種です。大粒でしわ粒の発生が少なく、倒伏抵抗性が強く最下着莢位置が高いため機械収穫に適しており、「エンレイ」に比べ収量・品質の向上が期待できます。

😊 使用実績のある実需者からは、品質や加工適正について一定の評価をいただいています。

😊 29年は種用種子（28年産）から県内種子場での種子生産を開始し、30年産から本格生産を開始します。

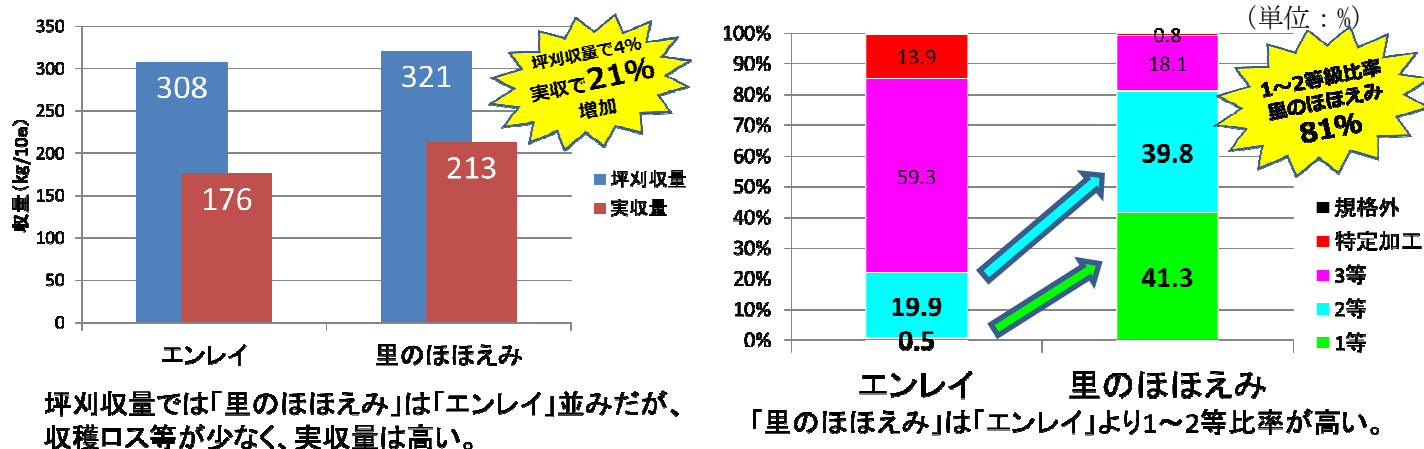
😊 実証試験結果や実需者の評価等について、速やかに情報提供をおこなうとともに、適宜説明会等を開催し、導入に向けた環境整備をすすめます。

【表5. 大豆生産計画】

(単位：ha)

	28年産	29年産	30年産
里のほほえみ	236	873	4,000
エンレイ	4,192	3,655	628
その他	222	222	222
合計	4,650	4,750	4,850

【図2. 平成27年度大豆「里のほほえみ」現地実証試験結果（概要）】



※ 新潟県：平成27年度「里のほほえみ」現地実証試験結果より。

(米穀部 総合対策課)